

小林正人『「景気循環」研究序説—資本主義経済において景気循環は必然的か—』

## 第2章 非自発的失業の大量発生と資本の矛盾

### 2.1 大量失業に対する「経営者の本音」 16

2008年9月「リーマンショック」…1929年恐慌から80年ぶりの恐慌。株価暴落などで4000兆円を超える富が消滅、数千万人の雇用が奪われた。直後の年末日本では「派遣切り」に関心が集まる

2009年のNHKスペシャルで特集、派遣切りに踏み切る経営者の本音が映像化

製造企業が設備投資をすると償却費が負担に→生産変動に対応するための雇用の調整弁として労働者派遣は便利。派遣は企業にとってありがたい制度。仕事がなくなれば派遣止めになるのは分かっていたこと。企業が悪いのではなく国が労働者派遣法を整備したはず。利益を出さなければ株式会社は成り立たない

### 2.2 経営者の合理的行動と不況の原因 17

2.1の経営者の判断は合理的判断→「利潤の減少を最小にする」という意味での利潤追求

しかし、競合他社も同じことを行う

⇒発注の減少が拡大し多数の労働者が失業、消費需要の減少、設備投資需要が縮小しさらに消費需要が減少という「需要の縮小スパイラル」に

個々の経営者は「景気の底が見えない」と嘆くことに

縮小スパイラルを認識し雇用を続けても「過剰生産」となりやがて倒産←市場メカニズムの帰結

「合理的な行動」が自分で自分の首をしめ、働く意思のある労働者と家族を困窮させてしまう

発注を減らし雇用も削減した後残る生産設備は(過剰設備)に

◎原因は「不況期に稼働させれば利潤が減るか赤字になる」こと

→生産設備は「固定資本」であり減価償却が終わるまで利潤を出さなければならない利潤追求手段。資本主義経済の中では固定資本としての価値をなくさないよう稼働を止めること、労働者に使わせないことが合理的な使い方。結果、資本の生産力(競争力)の停止、廃棄を競い力の源泉である人間とその家族を苦しめ破滅させる自己矛盾に→資本である限り解決されない矛盾

「経済理論」は資本主義経済の中で作用する市場メカニズムの表層面を描いているだけ



景気循環の原因は資本主義の根本原理である「利潤原理」の解決法は資本主義経済の中に

### 2.3 非自発的失業への対策としての公共原理 19

すべての経営者が需要が減っても解雇はしない、失業者も出さないようにする

消費需要の連鎖的縮小、設備投資の縮小が減少。自殺も減る、子供の教育が続けられる、健康で文化的な生活が守られる

＝「社会的な無駄」は企業の利潤動機とは関係ない社会を確立する

⇒社会的な雇用の維持

受注が減った生産ラインがあれば増えている生産ラインに配置転換。できなければ、他の雇用先を紹介するまでの費用を企業が負担か、新たな労働能力獲得のための教育施設での教育費を負担、または派遣労働者の仕事がなくなっても住宅は保障するといった原則

◎特に重要なのはリカレント教育の保障

労働能力を可能な限り生かし発展させることが社会全体に効率をもたらすという考え。労働者に安定と安心を与え消費需要の連鎖的縮小を防ぐ

生産設備を使う競争では解雇や失業は避けられないというのは「不自由な」観念

資本主義経済の企業では[利潤＝売上－費用]の下で費用を最小にする競争が展開

⇒少ない労働力をより安く雇う競争に、その延長で労働者の解雇

⇒合理的だが、労働者の人生や生きがいや生存は犠牲に、結果需要の縮小スパイラルが増幅

資本主義経済では労働者の賃金は切り縮める費用の一つとして扱われる

⇒社会的に見れば日々の生活のための賃金であり消費需要として企業にも必要。この消費需要は需要の縮小スパイラルを小さくするだけではなく、労働者の創造的能力の向上や人間社会の安定や発展に



企業間競争の質の向上、生産者どうしの競争を高次の水準に

公共原理に基づいた企業間競争でも需要予測がはずれて過剰設備がでる可能性があるという批判も

利潤原理を度外視しても設備を過剰に建設しておくことが社会的に合理的な場合も

→学校や病院などの公共施設(過剰設備になっても人材をすぐに削ることが合理的ではない)

⇒一般設備にも取り入れられるべきで利潤原理による縮小スパイラルの再発防止に

西独の憲法では生産設備を公共原理で運用することが宣言されている。日本でも社会原理を優先させるという国民的合意が成立すれば生産手段を公共原理で運用するという法理が成立

社会的に雇用を維持するシステムは労働コストを底上げし、発展途上国とのコスト競争に勝てず企業の海外移転や産業の空洞化を促すという批判も

⇒コスト競争に集中するだけでは果てしない賃金競争に巻き込まれる、結果海外移転は止められない

⇒日本にしかできない製品や技術が必要。そのためには人材養成や教育訓練の体制整備を充実したものにすることが必要